

# 勇気の一言で パワーアップした友情

教育評論家 尾木直樹



自分より強い相手に、言いたいことを伝えるには、誰だって勇気がいります。「怒られるかな」「イヤなこと言われちゃうかな」「聞いてもらえないかな」など…考え出すとキリがありません。子どもだけじゃありません、大人だって同じです。

この絵本の中でも、りすくんは、自分より強くて大きいくまんに、「あやまって」「の一言を言ひの」に悩みに悩みます。お布団の中で…。

でも悩みぬいたすえ、勇気をかりしほって、はっきりと「あやまって」「自分の気持ちを素直に伝えるのです。

なぜ、りすくんは勇気を出せたのでしょうか。

それは、「自分の気持ちにうそをつきたくなくさうさう気持ちひ、すなわち「フライド」が心の中に渦巻いていたからです。

単にくまんに「プリンを食べられてしまったこと」が悔しかっただけなら、お母さんにグチを言って自分の気持ちをなだめることができたかもしれません。でも、りすくんは、これまでも自分の気持ちを伝えられなかった後悔の経験がうしろにもありました。だから、「もう、自分の気持ちにうそをつきたくなくさう」と決意したのでした。

また、これがりすくんの嫌いな相手だったら、あきらめることができたかもしれません。でも、大好物のプリンを食べってしまったのは、よりによって、お友だちで仲良しのくまんだったのです。

りすくんは、きつとくまんに、本当の自分の気持ちを伝えたかったのだと思います。「じゃあ、」「さう」と評してききたうせ、本当はイヤだったのだと。自分のうそ、きつとわかってほつて…。

そんなりすくんの真剣な気持ち伝わったからうそ、くまくんは、素直にあやまってくれたのでしょ。こうなれば、二人の友情はさらにパワーアップ。勇気の一言から、お互いの尊敬を尊重し合える、新たな関係性が生まれたのです。